

— 神戸医療センター外科 研修医日記 —

この研修医日記とは、神戸医療センターの初期研修医および専修医（後期研修医）が外科で研修した際に、自身が経験し印象に残った出来事を徒然なるままに書き綴った日記です。物語はすべてノンフィクションですが、もしかしたら多少の枝葉が付随しているかもしれません。しかし原則、研修医目線で物語は進行しています。

毎回日記の終わりには、天の声（変集者後記）が客観的な評価を行うシステムになっていますが、もしかしたら主観もかなり入っているかもしれません。

いずれにせよ、将来外科医になることを視野に入れて現在初期研修病院を模索している学生諸君にとっては、こういう研修医目線の感想や評価は病院選択の際に非常に参考になるのではないのでしょうか？

是非この日記を読んで、神戸医療センター外科の雰囲気がどういうものかということを知っていただければ幸いです。

そして、一度見学に行ってみたいなあとか外科で研修をしてみたいなあとか思っただけであれば思うツボです！

それではご堪能下さい。



～研修医日記～

Vol.1 『集中 !?』

—大御所研修医編—

～2019年4月〇日～

大御所研修医:「初期研修が始まって2週間かあ～～！今は外科のローテやけど、一応希望する科の一つやから、ちょっと気合入れてみよっかなあ～。
そういや今日はラパ胆(腹腔鏡下胆嚢摘出術)やったな。楽勝やで～。すぐに終わりそうやし、定時に昼メシ食べれそうや～。でもよう考えたら、昨日合コンやったから手術の予習してなかったなあ……。まあ、どうにかなるっしょ～～！！」

(この日の手術は、新米外科部長、赤パン専修医^(註1)、大御所研修医の3人で行われた)

～手術中～

赤パン専修医:「部長！今日は胆嚢の手術ですね、予定通りここの漿膜から切り始めます！」

新米外科部長:「よし、そうしよか。けどちょっと待て。研修医！今日印にしてるその肝臓の溝はなんて言うんや？」

大御所研修医:「……………」

(……ピ、ピエール……瀧？、いや違う💧……)

正解はルビエール溝

新米外科部長:「……………」

(んっ？ 聞こえてなかったか？……)

～15分後～

赤パン専修医:「部長、胆嚢管が見えてきました。とすると胆嚢動脈はこの辺りにありそうですね。」

新米外科部長:「そうやな。……研修医！胆嚢動脈はどこから分岐してんの？」

大御所研修医:「……………」

(え——っ💧、どこからやったっけ？💧……門脈やったっけ？💧💧……)

正解は右肝動脈

新米外科部長:「……………」

(いまのは流石に聞こえてるはずやぞ……)

～さらに 15 分後～

新米外科部長:「おい研修医！胆嚢管を分岐する、あのまっすぐ走る管の名前はなんや？」
(なんぼなんでもこれは分かるやろう……)

大御所研修医:「……………」

(えーっ💧、ヤバい💧、全然わからん……どうしよう～～！！
💧💧💧) **正解は総胆管**

新米外科部長:「……なんや、わからんから黙っとったんか？💧 ちゃんと予習して……」

大御所研修医:「 部長！！、手術に集中しましょう！！💧💧 」

一同:……………啞然！！！！

新米外科部長:「……………」

(コ、コ、コイツ～～～～！！💧💧💧)

大御所研修医:(フッフッフツ……しめしめ、何とか逃げ切れた～！！

これ、使えるなあ～！みんなに教えてやろ～～っと！！)

【変集者後記】

入職後、わずか 2 週間目の出来事である。「…よくぞまあこんな瞬時に、都合のいい言葉を思い付いて、しかも発言までするもんなんやと、こいつ将来大物になるか道を踏み外すかのどっちかやろうと…！」その場の誰もがそう考え、呆気に取られた瞬間であった。

大御所研修医はその後外科のローテーターに、「手術中に質問されてわからん時は、『手術に集中しましょう！！』って言えば逃切れるで～～」と吹聴して回っているらしいが、その後の外科ローテーター研修医でそんな不届き者は現れていないらしい。

注 1: 赤パン専修医とは、ほぼ毎日赤パンを履いているが、術衣のズボンを今時の若者風にルーズに履いているため、身体を屈曲するたびに赤パンがアピールをするかのように露出され、嫌でも周りの目に入ってしまいうシステムを備えた専修医のことである。



～研修医日記～

Vol.2 『妄想』

—妄想研修医編—

医者の仕事とは、患者さんの人生に関わることが出来る実にやりがいのある仕事である反面、その手を差し伸べるべき愛しい患者さんに対して、不満を抱えてしまうのもまた現実である。

●月●日

診察中にイヤホンを外さず、一方的に喋り続ける患者 A さんに疲弊する。
僕の問いかけにも一切構わず、マシンガントークは止まらない。
そのイヤホンを今すぐ取って僕の話聞いてくださあ～～～い！！

▲月▲日

ストマ管理の重要性を説くも患者 B さんは「自分一人では出来ない！」の一点張……
なぜ出来ないか尋ねると、「ストマが見えないから…」と答える
いや、今あなたバッチリ自分のストマを指さしてましたよね！
あなたは力士ですか??
(ちなみにほとんどの力士は出っ張ったお腹の影響で下腹部は見えないらしい！)

■月■日

せんせ……せんせ……！ 患者 C さんが助けを求めるべく悲痛な叫びを上げている。
病棟に呼ばれて駆けつけた僕は、憔悴しきった患者 C さんを発見した。
どうしたのかと問いかける僕に彼女はこう答える。
「おしっこ漏れた……」

はあ～～～～～っ……………。

疲れきった僕はふと研修医室に飾ってあるポスターが目に入った。

こちらに優しく微笑む石田ゆり子のポスターだ ♥♥♥



何を隠そう、僕は石田ゆり子の熱狂的なファンなのだ。

石田ゆり子の著書は全部持っているし、YouTube に上がっているエピソードトークはほとんどチェック済だ。ゆり子がいれば何でも出来る、元気ですか？

もしも…もしも患者さんがみんな石田ゆり子だったら。

喋り続ける石田ゆり子に僕はそっと耳を傾け続けるだろう。

彼女の口からマシンガンの弾丸の如く繰り出される言葉の数々であれば、ぼくの身体をハチの巣にされても何ら悔いはない。

ストマ管理が一人では出来ないと駄々をこねる石田ゆり子に僕はそっと寄り添うだろう。

初めて補助輪を外して自転車に乗る我が子を手取り足取り愛情をもって教えるが如く、ストマ管理を指導するだろう。

例えその不安定な自転車で僕の股間に突っ込まれることがあったとしても……

オムツにおしっこを漏らした石田ゆり子の手を僕はそっと握るだろう。

看護師ではなく、1 番最初に僕に報告しようとしてくれた一途さに心が打たれる。

信頼があるからこそその行動であり、誰が信頼していない人間に初物を捧げてくれようか。

妄想を終えた僕の前には、優しい世界が広がっていた。

そう、僕は悟ったのだ。

患者さんがもしも石田ゆり子だったら…ではなく、患者さんはみんな愛すべき石田ゆり子なのだ。

いや石田ゆり子でなくてはならない。

僕たちは、石田ゆり子のために全霊で治療にあたり、石田ゆり子のために日々勉学に勤しみ、石田ゆり子のために足繁く病院に通う。

石田ゆり子を愛するのは人として当然のことであり、患者さんを愛することは医者として当然のことである。

石田ゆり子もまた、僕たちに愛されるのを待っている。

僕の中で迷いはなくなった。

さあ、患者さんのために今日も1日頑張ろう！！

【変集者後記】

この研修医の妄想力は秀逸であり、今後この妄想力で仕事の能率も UP しそうな気配を感じずにはいられない。そして病棟の看護師がもしも石田ゆり子だったら、彼は 24 時間 365 日病棟に張り付くのであろう。そして絶対服従で、自分の仕事に加えて点滴の交換や朝の検温、採血とかも忠実にやるかもしれない。さらにはミスをした時のお仕置きに石田ゆり子のナースシューズのヒールで身体をグリグリされては至極の幸福を感じているに違いないだろう……❤

おっといけない💧、私まで妄想癖が伝播してきているようである💧💧……

いずれにせよ、人を前向きにさせるような妄想は悪くはないものだ。

～研修医日記～

Vol.3 『時差ボケ』

—赤パン専修医編—

2019年某日

赤パン専修医:あ~~~~夏休みのハワイ旅行楽しかったなあ~~!!

でも今日からまた現実に戻って仕事かあ~!

ツライ……

しかもいきなり今日はPD(臍頭十二指腸切除術)で長時間オペやしなあ……

～手術中～

新米外科部長:よっしゃ、これから臍管と空腸を縫っていくで。糸は後で結ぶから、絡まんように軽く引っ張っとくんやで~~!

赤パン専修医:わかりました!

新米外科部長:8針かけるからな。まず、この糸は12時、これは6時、この糸は4時半…… よっしゃ、結んでいこう。まずは3時の糸から!

赤パン専修医:……んっ?……3時?……ええっと……これかな、はい!

新米外科部長:違う違う!これは9時の糸や! しっかりせいよ!!
次は6時の糸や!

赤パン専修医:すみません!はい!

新米外科部長:コラッ!! 12時の糸渡してどうする! ❌

赤パン専修医:おかしいなあ~~ …… あっ!……

新米外科部長:……おい、もしかして頭の中まだウクレレが鳴り響いてるんとかちゃうか??

赤パン専修医:うっ💧 ……(やっちまった……)💧

新米外科部長:わかったわかった、まだ、ハワイ気分なんやな。

ほんじゃあ、もう一回12時の糸や……ハワイ時間のな……

赤パン専修医:先生……もう、どれがどれだか……

【変集者後記】

どうやら専修医の頭の中は、ウクレレをBGMにワイキキビーチで展開されるビキニ姿のお姉ちゃん達の映像で一杯だったようで、見事に見透かされたようである。

おそらく彼も得意の赤パンを履いて相当浮かれてはしゃいできたのであろう……

仕事復帰後1週間ほどは、朝のカンファレンスで姿を見なかったために部長にモーニングコールをしてもらったり、昼前に電話をする時に「朝早くからすいませんが……」と尝试してみたり、夜中の3時頃に意味もなく医局を徘徊する姿を目撃されたりと、時差ボケ症状がはなはだしかったらしい……いずれにせよ、夏休み明けの長時間手術は体力的にも精神的にも辛いものである。



～研修医日記～

Vol.4 『切り替え』

—切り替え研修医編—

切り替え研修医:今日はメッチャ忙しかったなあ～～！！

重症の患者さんのトラブルもいっぱいあって、朝からず～っと走り回ってたし・・・






しかも外科部長にはメッチャ怒られたしなあ～～～！！

あれはかなりヘコんだなあ～……

～夜の研修医室～

切り替え研修医:今日はヘコんだわあ～～！！

大御所研修医:お前、今日忙しそうやったなあ～。何かあったん？

切り替え研修医:あの PTP シート(薬の入ったシート)を誤飲した患者さん、穿孔してる可能性があって今日外科にコンサルトしたんよ。午前中に画像や検査所見が出てたんやけど、忙しくて後回しにしてしもて、夕方に外科部長にコンサルトしたら「午前中にわかったことを何で今頃相談するんや！ もしこれからオペになったとしたら、いろんな部署に迷惑がかかるやろう？ 忙しくても仕事の優先順位ってもんがあるんやから、これからはそれを考えなあかんぞ～～！！ 」ってメッチャ怒られたわ～～！！

大御所研修医:そんな怒らんでもええのになあ～。

切り替え研修医:俺、今日ほんまに忙しかったから、あの患者さんに手が回らんかったんよなあ～。でも考えてみると他の患者さんも重症なんやけど、内科だけでも対処出来るから、確かに言われた通りなんよ～。

大御所研修医:でもお前ほんまに忙しそうやったもんなあ。

切り替え研修医:いや、俺が外科ローテしてる時に部長って怒るイメージなかったから、それで余計にヘコんでるんよ～～～！！

大御所研修医: そういやそうなあ〜。俺なんか手術中に部長に質問されて、わからなかった時に「集中しましょう！」って言うた時も怒られなかったしなあ〜(←怒られるというより呆れられていることに気付いていない)

切り替え研修医: いやあ〜、でもヘコむわ〜！！

大御所研修医: まあそんな気にせんでええやん。俺もそうやけど、これからは仕事の優先順位っていうのを考えていったらええんやろう？

切り替え研修医: そうやなあ〜、仕事の優先順位なあ〜…………はあ〜〜〜つ…
でも、まっいいか。いつまでもヘコんでてもしゃあないしなあ〜。
よっしゃ、今日はこないだの合コンで仲良くなったおねえちゃんでも誘って三宮に繰り出して憂さ晴らししよ〜〜〜と！！ イエ〜〜〜イ！！！！

大御所研修医: ……(切り替えはやっ！！！！)

【変集者後記】

凄まじく切り替えの早い研修医である…………💧💧

研修医時代は怒られるシーンは多々あるが、そうやって成長していくものである。

その中で気持ちの切り替えは重要である。いつまでも怒られたことを気にしていても前に進めない。しかし瞬時に切り替えが出来るのは特技ではあろうが、その良し悪しは時と場合にもよる。

果たして外科部長の教訓はどこまで彼に届くのであろうか…………



～研修医日記～

Vol.5 『1000万円級のカンファレンス』 —無礼講専修医編—

緊急事態宣言発令中で外出自粛等により不自由な生活を強いられている5月のとある日の術前検討会の風景……

無礼講専修医:「次の症例です。〇〇 △△さん、82歳男性の方で、20〇〇年△月△日に腹腔鏡下S状結腸切除術を予定している方です。主訴は血便です。現病歴ですが……」

当院外科では、週1回、術前検討会を施行している。術前の患者に対して現病歴、既往歴、術前の検査所見、問題点などを全員で詳細に検討し、より安全な手術が行えるように議論が行われている。

症例を発表するのはもちろん若手外科医。部長はもちろん、全員の先生の眼差しを一手に受け、しんと静まりかえった空気の中発表するため、毎回緊張しながら挑んでいる。特に画像所見のプレゼンについては多々鋭いツッコミが入るが、ツッコまれるとボケたくなる性分を抑えつつ、毎回タジタジになりながら打ちのめされている……👥👥👥

無礼講専修医:「続いて血液検査です。肝機能、腎機能は特に問題なく、電解質異常や凝固能にも問題はありません。凝固能も正常範囲内です。貧血も問題ありません。しかし、入院してからなぜか白血球とCRPが上昇してきており……。」

上級医:「お～～……、それは感染症やないかい。その特徴は完全に感染症やなあ～。」

無礼講専修医:「しかしわからないことがありまして……。」

上級医:「なにがわからへんのよ～～？」

無礼講専修医:「それが、僕も感染したのかと思ったんですけど、うちのオカン……じゃなくて培養検査室の人が言うには、培養結果は全て陰性らしいんですよ～～……。」

上級医:「あー、ほな感染症と違うかあ～。」

無礼講専修医:「?!?!?!?! しかし先生、その後一応抗生剤を投与したら、数日で患者さんの症状が良くなってきてるんですよ〜。」

上級医:「ほな感染症やないかい!! そんなん抗生剤を投与して良くなったっていう患者さんは、感染症の人か、三度のメシよりも抗生剤が好き〜♡っていう患者さんのどっちかやからな〜! 他にもうちよつとなんか情報なかったん?」

無礼講専修医:「そういえば、うちのオカ・・・じゃなくて、感染症内科の先生が、これは感染症ではないです、って言っていました。」

上級医:「ほな感染症とちゃうやないか〜〜い!!! ❌❌❌❌」

このように、当院外科は真剣なカンファレンスの場でもユーモアと笑いを決して忘れない職場なのである。

それにしても、カンファレンスの数日前に放送された M-1 グランプリで優勝したネタを、早速持ち込んでこられた上級医の先生ってすごいよなあ〜〜!!。

【変集者後記】

なかなか和やかな術前検討会の風景である。

しかしこの研修医、上級医にたいそう感服しているようだが、何を隠そう自分からしっかりネタ振りをして、まんまと上級医が乗せられているように感じるのは私だけであろうか?

もしかしたら、普段のカンファ中の鋭いツッコミに対し、一度はボケてみたいという欲望がこういう形になって現れたのであろうか? (ツッコミとボケの意味を取り違えているようだが・・・◆◆)

いずれにせよこのパターンのやり取りは、カンファ中でも手術中でも、ひいては日常のあらゆるシーンにでも応用出来る可能性があることを考えると、1000 万円級のネタと言っても過言ではないかもしれない。



～研修医日記～

Vol.6 『職場内での序列』 —無礼講専修医編—

～とある日の手術室の風景～

無礼講専修医:「さて、今日は外科専修医になって初めてのラパヘル(腹腔鏡下ヘルニア根治術)や。しっかり予習もしてきたし、バッチリ手術を完遂させてみせるぞ～！！」

手術室にて～

無礼講専修医:「〇〇さん(手術室ナース)、今日ってカメラは 2D カメラですよね？」

当院では、2016 年 1 月より 3D 内視鏡外科システムを導入しており、内視鏡手術の安全性、効率性の向上に役立っている。ラーニングカーブの改善にも貢献しており、若手外科医にとっては大変ありがたいカメラなのである。時々、部長が裸眼で手術室に入って来てはモニターを見ながら「あかん！今日は物が二重に見えて目の調子が悪いわあ～～！！！」と一言残して退場するシーンも見受けられるが……………◆◆

当院には 3D カメラは 1 台しかないために(※)、原則として長時間手術や悪性疾患の内視鏡手術に優先して使用されている。また同じような手術が並んでいる手術日では、先輩から 3D カメラが割り当てられるという年功序列式になっている。当然一番下っ端の僕は 2D カメラでの手術になるのである(余っていたら使わせてもらえる)。

手術室ナース:「いえ、今日は 3D ですよ！」

無礼講専修医:(あれっ？ 今日って隣の部屋で、1 年上の赤パン先生もラパヘルしているよな？ 僕、3D カメラ使っちゃっていいのかな…。まっいいか。)

3D カメラや上級医のご指導により、手術は無事完遂することができた。

無礼講専修医:「ふう、なんとか無事終わった。明日も同じ手術あるから頑張ろう！！」

翌日、手術室にて

無礼講専修医:「今日ってカメラは 2D、3D どっちですか？」

手術室ナース:「3D カメラですね。」

無礼講専修医:(あれっ? 今日も隣の部屋で、赤パン先生が同じ手術しているよな? なんてこんなことが起こっているんやろか。)

すると、手術室に部長が入ってきた。

部長:「あれっ? 物が二重に見えるということは…今日は 3D カメラか?」
(一応部長も進化しているようである…)

無礼講専修医:「はい、そうみたいです。普通なら赤パン先生の手術のほうで 3D カメラになると思うんですけど…。」

すると部長は、なにかを悟ったような様子でニヤニヤしていた。

無礼講専修医:「…? どうしたんですか?」

部長:「どうやらお前は赤パンより序列が上やということやな。手術室スタッフがそう判断してるといことやわ。笑笑笑」

無礼講専修医:「フッフッフ、そういうことか……シメシメ……」

後日、手術室で…

部長:「何で無礼講専修医と赤パン専修医の序列が入れ替わってんの??」

手術室ナース:「それがですねえ～、赤パン先生ったら 3D カメラを使って女性の身体を立体的に捉えてスリーサイズを正確に測定してしまうっていうとんでもない特技があって、3D カメラを与えると私たちが追いかけて回すんで、大迷惑してるんですよ～～!! ❌ だから赤パン先生には 3D カメラを与えないようにしてるんですっ!! ❌ 部長からも何か言ってやってくださいよ～～!! ❌」

部長:「なあ～～～|にい～～～?? それじゃあ、オイラも早く 3D カメラの使い方覚えなくっちゃ～～!!! ♡」

手術室ナース:「(……うちの外科医たち、大丈夫かいな?? ◆◆……)」

(※) 3D カメラについては、最近 joy stick 式の最新型の 2 台目が導入された

【変集者後記】

昨今は昔に比べると、序列というものは緩くなってきているようである。

しかしこの外科の序列については、外科医のキャラクターの濃さで崩壊しつつあるようだ。

手術室ナースが心配しているのも納得出来る。

部長や専修医達のやりとりを見ていると、そう遠くない将来に下剋上が起こるような気がするの
は私だけであろうか……？

